

TOKYO× PRINT× LANDSCAPE II

新しい季節を待ちながら

ハットリアイコ・門馬英美・吉田庄太郎
協力：岡田晴菜

2017年
12月6日(水)～11日(月)

時間：12:00～19:00

パーティー：12月9日(土) 17:00～

Web：<http://tokyoprintlandscape.jimdo.com>

Instagram：<https://www.instagram.com/tokyo.print.landscape/>

後援：武蔵野美術大学校友会 **m-b!**

門馬 英美 《穏やかな日-荒川区-》 シルクスクリーン 2017年

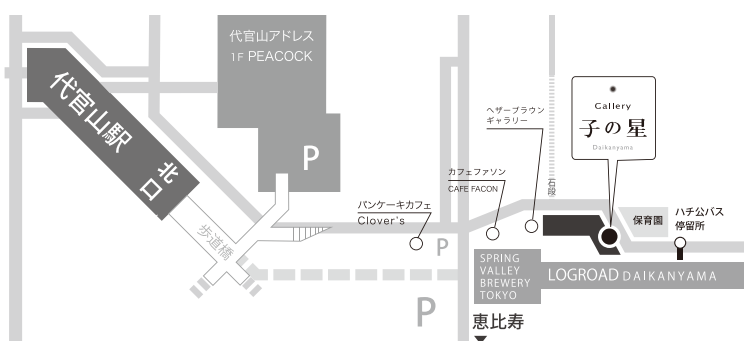


Gallery 子の星

〒150-0034 東京都渋谷区代官山町13-8 キャッスルマンション113
<http://www.nenohoshi.com>
TEL:03-6416-5919

Access

東急東横線代官山駅 北口改札より徒歩約4分
JR・東京メトロ恵比寿駅 西口より徒歩約8分
他、JR・東京メトロ渋谷駅より徒歩約12分



「東京の今」を描く

日々の忙しさに流されて、私たちは身の回りの小さな変化に気付かずに過ごしていることが多くあります。季節を感じる、人々の動き・表情、街並みや建物の変化など、本展はそんな私たちが忘れていた「ものを見て感じる」を続けている作家による展覧会です。本展は「東京」をテーマに1年に1回開催する4年連続企画で、今年はその第2回目となります。1年の移り変わりを感じながら、風景を見ることに少し意識を傾けるだけで、新しいことに気が付いたり、認識が変わったり、細部までよく考えるようになります。普段見過ごしていたことも、作

品を作ることを意識するだけで風景から吸収できる情報や感覚は大きく違います。本展では「風景を描く」という共通点を持つ3名の作家が、それぞれの視点で捉えた「東京」の魅力を版画で表現します。

出品するハットリアイコ、吉田庄太郎、門馬英美の3名はともに大学で版画を学び、板目木版、木口木版、シルクスクリーンという技法を用いて制作しています。東京で暮らし、東京で働く3名がどのような着眼点を持って風景を解釈していくのか。東京で生きる版画家が、刻々と変化する「東京の今」を模索します。

ハットリアイコ

1985年群馬県出身
2008年武蔵野美術大学版画コース卒業
2015年グループ展「Hanga +Curry展」Gallery 子の星（代官山）



ハットリアイコ《王子、16時36分 -北区-》
128×182mm 木版画 2017年

門馬英美

1984年東京都出身
2010年武蔵野美術大学大学院修了
2016年「第2回 PAT in Kyoto 京都版画トリエンナーレ」京都市美術館(京都)、個展「The sequence of landscape」Gallery 子の星（代官山）など。



門馬英美《Aquarium -墨田区-》
450×450mm シルクスクリーン 2017年

吉田庄太郎

1983年神奈川県出身
2008年武蔵野美術大学版画コース卒業
主に木口木版を制作。
2015年グループ展「Hanga +Curry展」Gallery 子の星（代官山）



吉田庄太郎《狐猫会議 -中央区-》
128×182mm 木口木版 2017年

岡田晴菜

1983年三重県出身、2010年 武蔵野美術大学大学院修了。

2018

Calendar

2018年カレンダー販売

本展では版画の複数性を活かし23区を描く限定45部のカレンダーを制作いたします。第1回は葛飾区・江戸川区・港区・千代田区・杉並区・渋谷区を描きました。第2回は台東区、中央区、文京区、荒川区、北区、新宿区の6区です。

普段私たちが見ている「東京」を、作家を通して見ることでどんな新しい姿として描かれるのか、版画ならではの、色の重なりやその深みの表現をカレンダーとしてお楽しみください。

<第2回2018年カレンダー>

表紙：岡田晴菜

1月・2月（文京区）

門馬英美

3月・4月（北区）

ハットリアイコ

5月・6月（中央区）

吉田庄太郎

7月・8月（荒川区）

門馬英美

9月・10月（新宿区）

ハットリアイコ

11月・12月（台東区）

吉田庄太郎

（限定45部）価格4,000円予定

